

令和7年度 第2回川和高等学校運営協議会

日時 令和8年1月14日（水）15:30~16:30

場所 本校 応接室

■ 校長あいさつ

- 組織運営は「関係性 → 思考 → 行動 → 成果」の循環が重要。
- 指示型でなく、教職員が主体的に動ける組織文化を目指す。
- 目標はシンプルにし、各グループが自発的に改善できる体制を整備。
- 日本の教員は業務過多で、県として業務削減を進める方向。
- 教育目標：学力向上と進学重点校としての自覚。探究を通してリーダー性等を育成。
- 少子化・通信制増加で志願状況が変化し、公立全体に定員割りリスク。
- AI・雇用変化により、今後は問題発見力・予測力などが重要。キャリア形成は個人主体へ。

■ 副校長より

- 学校方針はミッション・ビジョンと3つのスクールポリシーで構成。
- 学校教育計画は4年間を1区切りとし、年度目標と評価を循環させ改善。
- 教育課程は科目接続も含め授業改善を推進。
- 部活動は加入率102%、県・関東・全国に複数実績。
- 生活指導は習慣・安全意識の向上を継続して実施。
- 地域連携は文化祭・清掃活動・町内会と協働。

■ 委員からの意見

- 現代の18歳は「自分で考えて行動する力」が弱い印象がある。
- AIにより答えがすぐ得られる環境が、思考力低下につながっている可能性。
- 少子化・人手不足社会で、子どもがどう適応するか不安がある。
- 判断力が未成熟なまま社会的責任を負う場面が増えている。
- クレジットカード不正利用など金銭トラブルへのリスクが高い。
- 家庭環境が不安定で孤立している子どもも一定数存在する。
- いじめは陰湿化・巧妙化し、表面化しにくい。多角的な精査が必要。
- 学校には、学力や運動だけでなく、「人間的成长」を丁寧に見てほしい。

■ 校長回答

- 今の子どもは守られた環境で育ち、急に責任を負うと負担が大きい。
- 小学校は心、中学校は知識、高校は再び人間性・コミュニケーション重視の段階。
- 探究的・主体的な学びは社会変化に応じた必然。
- スマホネイティブ世代は20歳でも判断が不十分な場合がある。

- ・ 閨バイトなど、犯罪の敷居が低く見える現状は危険で、どの学校でも油断できない。
- ・ 地域の治安も含め、学校として常にアンテナを張る必要がある。
- ・ 消費者教育の強化が必要だが、重要なのは「一歩立ち止まって考える力」を育てる
- こと。

■ まとめ

- ・ 今日の意見は記録し、グループリーダーへ共有。
- ・ 次回（書面開催）は学校評価に対する委員からの助言を依頼予定。

委員名簿

氏名（敬称略）	役職等
藤元 貴嗣	川和高等学校長
柏木 照正	都筑ヶ丘幼稚園長
横田 雅之	少年補導員 川和高等学校 OB ((有) 中川不動産代表取締役)
松本 綱	見花山自治会長
葩島 尚範	横浜市立荏田南中学校長
橋本 清子	川和高等学校 PTA 副会長

事務局

川端 啓明 副校長
田口 由紀 教頭